

お知らせ

INFORMATION



No.2018-31
2018年11月
病体生理研究所

新規検査項目受託開始のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。

この度、下記検査項目におきまして、新たに受託を開始させて頂くことになりましたので、ご案内申し上げます。

何卒、ご利用頂けますようご案内申し上げます。

敬具

記

【新規受託開始について】

◆ オートタキシン [16425] …検査実施施設 (M)

※項目情報裏面参照

《受託開始日》2018年12月6日(木) 受付分より

オートタキシン (ATX)

オートタキシン (autotaxin ; ATX) は脂質メディエーターのひとつであるリソホスファチジン酸の合成酵素です。

血清ATXは主に脂肪組織由来と考えられており、他に胎盤や一部の腫瘍組織でも産生亢進が認められます。ATXは肝の類洞内皮細胞に取り込まれて代謝されるため、慢性肝疾患に伴う線維化の進行により内皮細胞に変化を生じるとATXの取り込みが減少する結果としてその血中濃度が上昇することから、血清ATXは肝線維化のよいマーカーとなります。

近年、ウイルス肝炎をはじめとする慢性肝疾患の治療法が進歩し、線維化の進展抑制や病態改善も可能となったことにより、従前にも増して肝線維化の程度の把握ならびに治療後のモニタリングが重要となってきました。線維化の判定において最も確実なのは肝生検ですが、患者の身体的負担も大きいことから、相対的に侵襲性の低い肝線維化マーカー検査への期待はより高まっているといえるでしょう。血清ATXは軽度の線維化ステージ (F2) でも上昇し、既存の他の線維化マーカーに比べて早期の段階で線維化の進展を検出できると期待されます。

なお、副腎皮質ステロイド投与患者では脂肪組織による産生低下によりATX低値となる一方、妊婦では胎盤由来ATXにより血清ATX高値を示すため、注意が必要です。

【新規項目情報】

項目名称	オートタキシン (ATX)											
コード	16425											
検体材料	血清 0.3mL											
保存	冷蔵											
採取容器	No.1 → No.5											
検査方法	FEIA 法											
基準値 *1 (カットオフ値)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>① 線維化進展例 (mg/L) *2</th> <th>② 肝硬変 (mg/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男性</td> <td>0.910</td> <td>1.690</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>1.270</td> <td>2.120</td> </tr> </tbody> </table> <p>① より高い検体は、肝線維化進展例と判定します。 ② より高い検体は、肝硬変と判定します。</p>				① 線維化進展例 (mg/L) *2	② 肝硬変 (mg/L)	男性	0.910	1.690	女性	1.270	2.120
	① 線維化進展例 (mg/L) *2	② 肝硬変 (mg/L)										
男性	0.910	1.690										
女性	1.270	2.120										
所要日数	3~6日											
実施料 (区分)	194点 *3 (D007 48)											
判断料	生化学的検査 I 判断料 144点											
備考	<p>*1:判定上の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 妊婦では週数が進むに従いATX濃度が高値となることが確認されているため、妊婦検体の測定には適しません。 悪性リンパ腫患者、進行した悪性腫瘍患者では、ATX濃度が高値となることが確認されています。また、重度の心不全患者でも高値を示す場合があります。 副腎皮質ステロイドを服用している人ではATX濃度が低値を示す場合があります。 肝炎ウイルスを原因としない慢性肝疾患においては、肝線維化ステージとATX濃度の関係がウイルス性肝疾患と異なる場合があります。 <p>*2:C型肝炎治療ガイドライン(第5.4版)の「肝線維化F2以上」に相当します。</p> <p>*3:算定留意事項</p> <p>ア オートタキシンは、区分番号「D007」血液化学検査の「48」Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体の所定点数に準じて算定可能です。</p> <p>イ 本検査は、サンドイッチ法を用いた蛍光酵素免疫測定法により、慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定できます。</p> <p>ウ 本検査と区分番号「D007」血液化学検査「37」のプロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)、「38」のⅣ型コラーゲン、「40」のⅣ型コラーゲン・7S、「44」のヒアルロン酸又は「48」のMac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。</p>											

参考文献：池田均：医学のあゆみ 263 (13) : 1050-1054, 2017.

島本伶史, 他：東ソー研究・技術報告 61 : 99-104, 2017.

以上